

## モデル事業で乳がん検診受診者が2倍！

第37回予防医学実務研修会

### — 受診勧奨は効果あり —

# がん検診受診率の 向上にむけて

神奈川県保健福祉局保健医療部がん対策課 熊丸祐介さん／茅ヶ崎市保健福祉部保健福祉課 由良里和さん

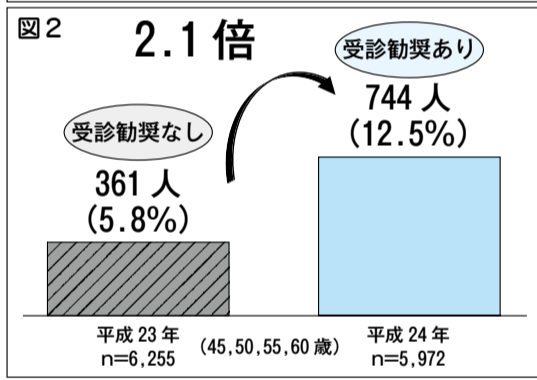
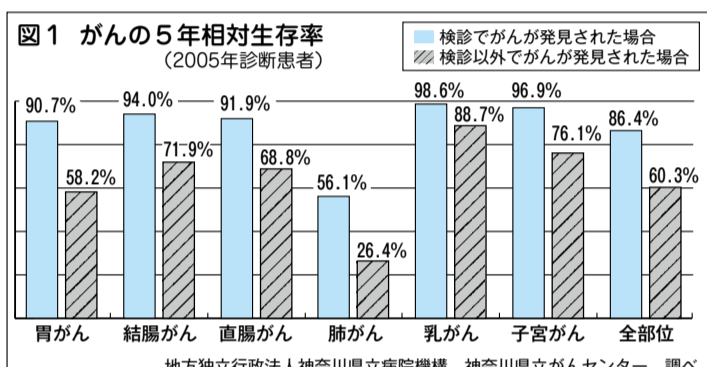
「がんにならない・負けない いのち輝く神奈川県づくり」を基本理念として、「がんにならない取組みの推進」「がんの早期発見」「がん医療の提供」「がん患者への支援」「がんに対する理解の促進」を5つの柱として、がん対策を推進している。

**早期発見につながる  
がん検診の重要性**  
神奈川県では、がんは死亡原因の第1位であり、約3人に1人ががんで亡くなっている。死亡者は年間2万人を超えており、ライフスタイルの変化や高齢化の急速な進行により、今後さらには増加する見込みである。このような状況で神奈川県では一神奈川県がん対策推進計画を策定し、「がんにならない・負けない いのち輝く神奈川県づくり」を基本理念として、「がんにならない取組みの推進」「がんの早期発見」「がん医療の提供」「がん患者への支援」「がんに対する理解の促進」を5つの柱として、がん対策を推進している。

**がんにならない・負けない  
いのち輝く神奈川県づくり(県)**

第37回予防医学実務研修会が8月27日、県内市町村のがん検診担当者など50人以上が参加して神奈川県中小企業センタービルで開かれた。がん検診受診率を向上させるため、神奈川県茅ヶ崎市及びアフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)が連携して取り組んだモデル事業は、茅ヶ崎市の乳がん検診受診者を約2倍にするという成果を上げた。その報告と、ソーシャルマーケティング手法(2面記事)による受診勧奨のポイントを中心に議論を深めた。

主催/公益財団法人神奈川県予防医学協会 共催/神奈川県都市衛生行政協議会・神奈川県町村保健衛生連絡協議会



特に重要になるのは、がんの早期発見に繋がるがん検診である。がん検診を受診すれば、症状のないうちにがんを発見され、早期治療することができ、がんの早期発見に繋がる。神奈川県立がんセンターの調査によれば、がん検診でがんが発見された場合は、検査以外でがんが発見された場合より、がんの5年相対生存率は20%〜30%台にとどまっていることが課題である。

このように有効性が確認されているがん検診であるが、神奈川県モデル事業を平成24年度に実施したところ、茅ヶ崎市の乳がん検診受診率が約2倍に増加した(図2)。

図3 検診費用と補助金の比較表

項目	金額
検査費用	約10,000円
助成金	一約10,000円
自己負担金	0円

今年度の受診期間は、施設検診は〇月、集団検診は〇月実施分まで

図4 がん検診の重要性に関する啓発ポスター

近年、日本人の2人にひとりががんにかかると言われてます。\*1  
\*1 70歳未満は乳がん、\*2 乳がんは40代女性の癌で一番多い病気です。

乳がんにかかるのはオーストラリア人の約1.5倍、\*3 日本人の約1.5倍です。\*4  
\*3 セルフチェックで早期発見  
\*4 がんは早期に発見すれば、治療すれば5年生存率も高くなります。

乳がんは40-50代の女性の自己検診で見つからないケースがたくさんある。乳がんは自己検診だけでは見つかることが少ない。早期発見のためには定期的にマンモグラフィ検査を受けることが大切です。

**個別送付による受診勧奨**  
モデル事業のポイント、神奈川県茅ヶ崎市、アフラック及び受診率向上のノウハウを有する株式会社キャンサースキヤンが連携し、乳がん検診を効果的に受診勧奨するリーフレットを作成し、茅ヶ崎市在住の乳がん検診

受診率を向上させるため、神奈川県茅ヶ崎市及びアフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)が連携して乳がん検診の受診率を効果的に向上させるモデル事業を平成24年度に実施したところ、茅ヶ崎市の乳がん検診受診率が約2倍に増加した(図2)。

1. 意識調査では、自己負担額だけでなく「本来の検診価格」と「市の補助額」を明示した方が、受診意欲が高まる傾向があった。  
→リーフレットには「本来の検診価格」と「市の補助額」を明示

2. がんにかかることを心配している方ほど、乳がん検診受診率が高い傾向があった。  
→「がんの罹患リスク・重大性に関する情報」を明示

茅ヶ崎市では平成12年度から施設検診(視触診検診)を実施、16年度からは集団検診にマンモグラフィ検査を導入した。だが、施設検診でマンモグラフィの併用可能な医療機関が確保できずいた。また、40歳以上のマンモグラフィ対象者には視触診のみ希望する人が多く、受診率に影響し

無料クーポン券配布対象者約6千人(45・50・55・60歳)に、個別に送付することで受診勧奨(リコール)した点がある。がん検診に関する意識調査も同時に実施してリーフレットの有効性を検証したところ、主に図3の4点、リーフレットによる受診率向上に寄与したと考えられる。

図5 乳がん早期発見の重要性に関する図解

乳がんも早期発見が重要です！  
乳がんは早期に発見すれば治療すれば5年生存率も高くなります。正しい知識を持って専門の先生と一緒に、定期的にチェックしていくことが大切です。

早期のがんが検診で見つけられるのは2年間  
乳がんは早期のうちに見つければ治療すれば90%生存率も高くなります。

治療後の5年生存率は  
I期(早期) → 98.9%  
II期 → 93.9%  
III期 → 72.1%  
IV期 → 33.3%

図6 マンモグラフィはこんな検査です。

マンモグラフィって一体どんな検査なんだろう？  
実際に受診する人になりかしてみよう！  
実際に受診する人になりかしてみよう！  
実際に受診する人になりかしてみよう！

マンモグラフィは、いわゆるおっぱいのレントゲン  
マンモグラフィは乳房を透過する電線(レントゲン)を照射して、乳房の内部の様子を写し取る検査です。

1cm以下のしこりも見つけられる  
優れた画像検査法。  
マンモグラフィは1cm以下のしこりまで見つけられる。優れた画像検査法。乳がん検診ではマンモグラフィのみならず、触診、視触診、必要に応じて超音波検査の併用も大切。もし乳がんの疑いがあった場合は、速やかに受診してください。

3. 検診でがんが見つかるのが不安と思っている方ほど、乳がん検診受診率が低い傾向があった。  
→「検診の有効性に関する情報」を明示し、不安を解消

4. 検診が痛いと思っている方ほど、乳がん検診受診率が低い傾向があった。  
→検診を過大に恐れないように、「正確な検診内容」を明示

がん検診利用を訴えることになった。今後は、市民が自分や家族の健康管理に、市のがん検診などを活用していただけるよう公民館などでの検診機会に、受診勧奨を兼ね、同時に受診結果についても経年的な管理体制づくりに取り組んでいきたい。

受診率向上のためには、市町村のがん検診担当者をはじめとした皆さまの力が不可欠である。このリーフレットを活用して、受診率向上につなげてほしい。